



株主のみなさまへ

# 第93期第2四半期 株主通信

2018年4月1日～2018年9月30日

## Contents

トップメッセージ	1
連結決算ハイライト	2
連結財務データ	3
トピックス	5
会社情報・株式情報・CSR	6
Takasago's History	裏表紙



代表取締役社長 **梶村 聡**

## 表紙について

歯磨きしている際の「スースーする」感覚には、メントールという成分が寄与しています。メントールは、ペパーミントの主成分で世界的に最も需要の多い素材の一つです。歯磨き粉やマウスウォッシュなどのオーラルケア商品に加え、ガムやタブレットまたシャンプーや制汗剤など冷感のあるものに使われています。

当社アロマイングリディエーツ事業では、独自の合成技術を活用し、再生可能な出発原料からL-メントールという安全で環境に優しい香料素材を製造・販売しています。



株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2019年3月期第2四半期連結累計期間(2018年4月1日から2018年9月30日まで)の概況につきまして、ご報告申し上げます。

本年度前半のわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が続くなど、緩やかな回復基調が持続し、個人消費についても持ち直しの動きが見られました。一方、世界経済は、緩やかな回復基調にあったものの、米国の保護主義政策に起因する通商問題、英国のEU離脱問題、中東情勢の動向に伴う原油価格の変動など、依然として先行きが不透明な状況となっております。

香料業界においては、競合他社との競争環境は厳しさを増す一方ですが、市場としては、中国や東南アジアでの成長が引き続き期待できる一方、成熟市場である欧米でも底堅い成長が見込まれます。

このような状況の中、当第2四半期の連結売上高は、769億円(前年同四半期比7.5%増)、営業利益は42億円

(前年同四半期比15.4%増)、経常利益は52億円(前年同四半期比23.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は42億円(前年同四半期比21.7%増)となりました。

## 経営方針

当社グループは、「地球環境に配慮し、地域社会を大切にしたい、世界の人々から共感を得られる企業を目指す」、「信頼される商品を供給し続けることにより、グローバル市場でのトップクラスの香料会社を目指す」の経営基本方針の下、創業100周年を迎える2020年に向けて飛躍的な成長を目指し、当社グループの有する全ての力を結集し、グループ一丸となって中期経営計画『TAKASAGO GLOBAL PLAN(One-T)』(2018-2020年度)に取り組んでおります。

なお、中間配当金につきましては、株主のみなさまの日頃からのご支援にお応えするため、長期安定配当の方針を継続し、前期同様1株あたり20円の配当とさせていただきます。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 企業理念

技術立脚の精神に則り  
社会に貢献する

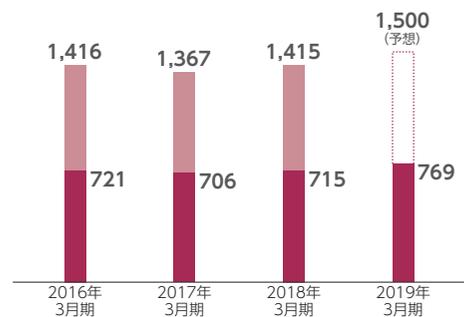
## 経営基本方針

地球環境に配慮し、地域社会を大切にしたい、  
世界の人々から共感を得られる企業を目指す  
信頼される商品を供給し続けることにより、  
グローバル市場でのトップクラスの香料会社を目指す

# 連結決算ハイライト | CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS |

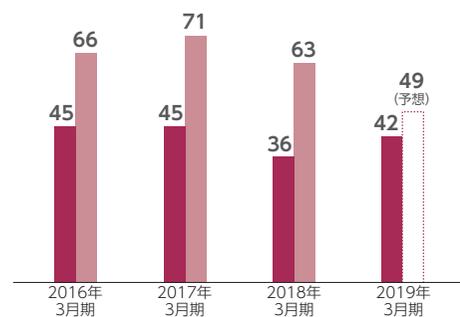
## 売上高

単位：億円



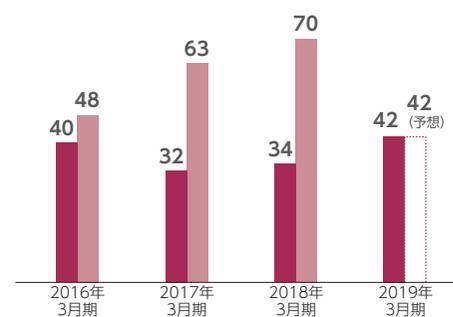
## 営業利益

単位：億円



## 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

単位：億円



## 中期経営計画 One-T 財務目標 (2021年3月期)

単位：億円

売上高	1,700
営業利益率	5.2%
ROE	8.0%

## 総資産

単位：億円

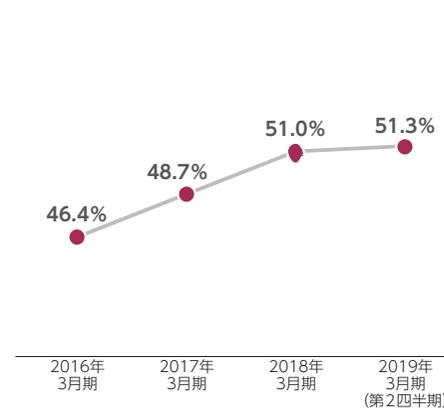


## 純資産

単位：億円

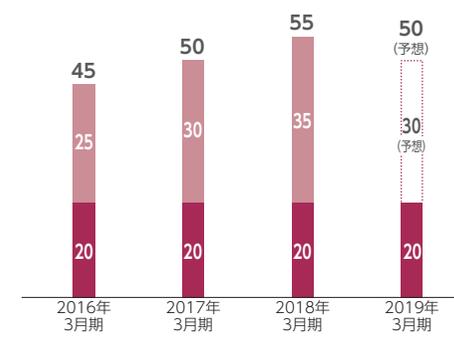


## 自己資本比率



## 1株当たり配当金

単位：円



(注) 配当金額は2015年10月1日実施の株式併合後の水準を基に算出しております。

詳細な財務データは当社IRサイトをご覧ください。  
<https://www.takasago.com/ja/ir>

高砂香料 IR

検索

経営成績

単位：億円

科目	2015年3月期 (第89期/第2四半期)	2016年3月期 (第90期/第2四半期)	2017年3月期 (第91期/第2四半期)	2018年3月期 (第92期/第2四半期)	2019年3月期 (第93期/第2四半期)
売上高	663	721	706	715	769
売上原価	451	485	475	485	527
売上総利益	211	236	231	229	241
販売費及び一般管理費	184	190	186	192	199
営業利益	27	45	45	36	42
経常利益	32	46	39	42	52
親会社株主に帰属する四半期純利益	20	40	32	34	42

**Point 売上高** フレーバー事業、フレグランス事業、アロマイングリディエント事業の売上が増加し、対前期比54億円増の769億円となりました。

**Point 営業利益** 原料価格の上昇等により利益率が低下したものの、売上増が利益に貢献し、対前期比6億円増の42億円となりました。

財政状態

単位：億円

科目	2015年3月期 (第89期)	2016年3月期 (第90期)	2017年3月期 (第91期)	2018年3月期 (第92期)	2019年3月期 (第93期/第2四半期)
流動資産	874	856	868	918	965
固定資産	821	867	892	979	1,001
流動負債	564	508	480	527	545
固定負債	331	399	408	386	397
純資産	800	816	872	984	1,024
(うち株主資本)	(643)	(685)	(736)	(796)	(832)
総資産	1,696	1,724	1,761	1,897	1,967

事業別概況

フレーバー事業

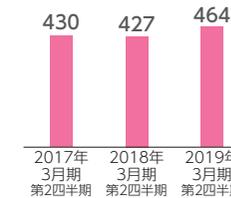


売上高**464**億円  
前期比8.6%増 ↑  
60%

**事業内容**  
飲料やデザート、菓子、乳製品、調理食品などに、優れた香りと風味を付与するフレーバーを提供し、さらに果汁やコーヒー、お茶といった食品原料も提供しています。

売上高

単位：億円



● ドイツ子会社において、バニラ関連製品等が伸長したことにより、増収となりました。

フレグランス事業



売上高**193**億円  
前期比4.4%増 ↑  
25%

**事業内容**  
香水や化粧品やシャンプー、洗剤、芳香剤、入浴剤といった商品に使用される香りを、残香性や拡散性、安定性にも優れたかたちでクリエーションし、提供しています。

売上高

単位：億円



● フランス子会社において、香粧品向けが伸長したことにより、増収となりました。

## アロマイングリディエーツ事業



売上高**68**億円

前期比22.3%増 ↑



### 事業内容

光学活性で革新的かつユニークな香りの素材を開発し、高品質のフレーバー、フレグランスのクリエーションに用いています。

### 売上高

単位：億円



● 市場の需給バランスの変化等により、主力のメントール等が好調に推移し、増収となりました。

## ファインケミカル事業



売上高**34**億円

前期比9.6%減 ↓



### 事業内容

独創的な触媒・不斉合成技術を核に、フロー連続技術による医薬品中間体、電子写真感光体などの機能性素材を提供しています。

### 売上高

単位：億円



● 医薬品中間体の売上計上のタイミング等により減収となりました。

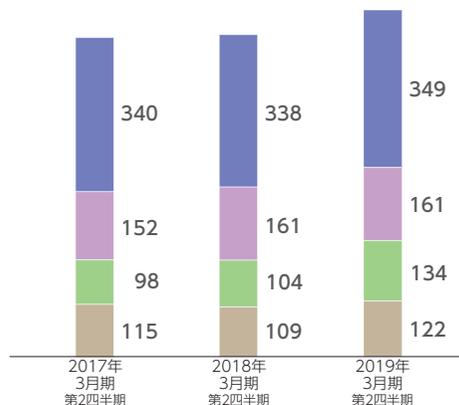
※上記の他に、その他不動産事業の売上高7億円がございます。

## 地域別概況

### 地域別売上高

単位：億円

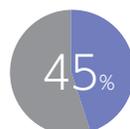
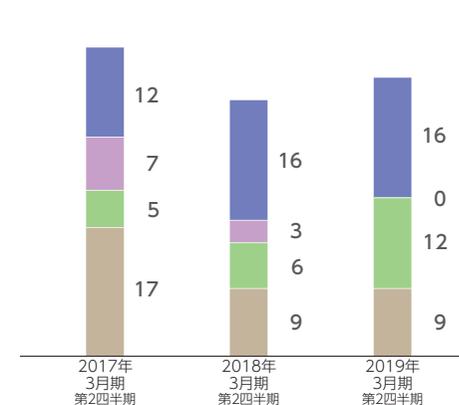
■日本 ■米州 ■欧州 ■アジア



### 地域別営業利益

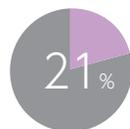
単位：億円

■日本 ■米州 ■欧州 ■アジア



### 日本

フレーバー事業、アロマイングリディエーツ事業が寄与し、増収となりました。利益面では原料価格の上昇により前期並みとなりました。



### 米州

売上高は前期並みとなりましたが、原料価格の上昇等により、減益となりました。



### 欧州

フレーバー事業では、前期に引き続き、バニラを使用した菓子、乳製品向け等が収益に寄与し、増収増益となりました。



### アジア

シンガポール子会社の飲料向けフレーバーが回復し、増収となりました。利益面では、原料価格の上昇により減益となりました。

## インドネシア現地法人 新工場の建設開始

2018年8月、インドネシアのチカラン市<sup>\*</sup>にて、現地法人PT. Takasago International Indonesiaのフレーバー(食品香料)、フレグランス(香粧品香料)工場の建設が開始されました。完成時期は2019年6月を予定しています。

当社は、香料市場の大きな成長が見込まれるインドネシアにおいて、迅速な製品、サービスの提供ができるよう、2015年に現地法人を設立し、準備を進めてきました。すでにフレーバー、フレグランスのアプリケーションセンターを開設し、現地顧客や消費者の嗜好を研究しています。ほとんどの国民がイスラム教徒であることに対応すべく、製造ライン等はハラール認証を取得済みです。

シンガポール、インド、インドネシアの3局体制で、成長する東南アジアの香料市場のニーズに対応していきます。

<sup>\*</sup>首都ジャカルタ東部の都市



新工場完成予想概観イメージ

## フランス現地法人 40周年を迎える

2018年9月、フランスの現地法人Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L.が設立40周年を迎えました。同社は、香水を始めとするフレグランス(香粧品香料)事業の開発・製造・販売を行っています。

1978年10月に設立された同社は、グループのヨーロッパにおける事業展開の先駆けになりました。当初調香師1名、調合技術者1名でスタートしましたが、1980年代には、スタッフも増え、フランス以外の周辺国にも駐在所を設けるなど、販売の拡大を図りました。世界的なブランドを有する企業との関係を構築し、例えば2018年10月に発表された英国・バーバリー社の新商品「バーバリー ハー」にも採用されています。グループのフレグランス事業を牽引する存在として更なる拡大発展が期待されています。



設立40周年記念式典における代表取締役社長・榎村聡のスピーチの様子

高砂コレクション・ギャラリーにぜひお越しください

## TAKASAGO COLLECTION<sup>®</sup>

当社は、香り文化の普及を願い、香りの歴史と文化に関する資料や美術品の収集と保存に努めてきました。

高砂コレクション<sup>®</sup>は、古代エジプト、ギリシャ、ローマ時代の香油瓶、中国の香炉、18~20世紀のヨーロッパの香水瓶などから日本の香道具、香炉、香合など約1,000点に及びます。これらの一部を本社ギャラリーで展示しています。

- 場所 高砂香料工業・本社17階ロビー内
- 開室 10:00~17:00 (入室は16:30まで)
- 休館 土日祝日、年末年始、臨時休館日
- 料金 無料
- 交通 JR蒲田駅東口・徒歩3分

### ファッション画

モーリス・レオーネ社  
1920年代 h. 62.3cm

20世紀初頭のパリでは、挿絵や装飾を多用した、美しいビジュアルのファッション誌が出版され、新しい世界を開いた。



写真 高砂コレクション<sup>®</sup>

## 会社概要

会社名 高砂香料工業株式会社  
(TAKASAGO INTERNATIONAL CORPORATION)  
本社 〒144-8721 東京都大田区蒲田5丁目37番1号  
ニッセイアロマスクエア 17F  
TEL 03-5744-0511  
国内事業所 大阪支店、名古屋支店、福岡支店、  
平塚研究所、平塚工場、磐田工場、鹿島工場、  
三原工場  
海外事業所 世界27の国と地域に事業拠点がございませ  
創業 1920年(大正9年)2月9日  
資本金 92億4,853万8,972円

## 取締役および監査役

代表取締役社長	梶村 聡
取締役	野依 良治
取締役	笠松 弘典
取締役	藤原 久也
取締役	山形 達哉
取締役	梁川 健一
取締役	谷中 史弘
取締役	松田 浩明
取締役	水野 直樹
取締役	磯野 裕一
取締役	川端 茂樹
常勤監査役	大西 清一
常勤監査役	近藤 仁
監査役	中江 康

(注) 1. 取締役野依良治氏、松田浩明氏は社外取締役であります。  
2. 監査役大西一清氏、中江康氏は社外監査役であります。

## 執行役員

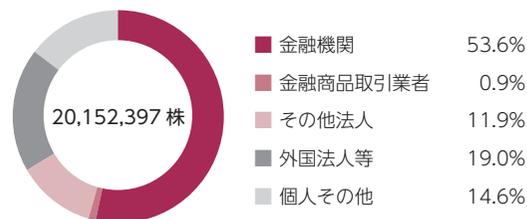
社長執行役員	梶村 聡
常務執行役員	笠松 弘典
常務執行役員	藤原 久也
常務執行役員	山形 達哉
常務執行役員	谷中 史弘
常務執行役員	水野 直樹
常務執行役員	磯野 裕一
常務執行役員	川端 茂樹
執行役員	隈元 浩康
執行役員	佐林 孝文
執行役員	川野 明彦

## 株式の状況

発行可能株式総数 60,000,000 株  
発行済株式の総数 20,152,397 株  
株主数 4,688 名

## 株式の分布状況

### 所有者別構成比



(注) 個人その他には、自己株式としての保有分(2.0%)が含まれております。

## 大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,833	14.3%
日本生命保険相互会社	1,468	7.4%
株式会社三菱UFJ銀行	947	4.8%
共栄火災海上保険株式会社	780	4.0%
中江産業株式会社	720	3.6%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	717	3.6%
株式会社みずほ銀行	486	2.5%
HSBC BANK PLC - MARATHON VERTEX JAPAN FUND LIMITED	480	2.4%
株式会社紀陽銀行	471	2.4%
HSBC BANK PLC A/C CLIENTS, NON TREATY 1	440	2.2%

(注) 1. 持株比率は発行済株式の総数から自己株式数(402,985株)を控除して計算してあります。  
2. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数には信託業務に係る株式数が含まれております。

## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 6月  
基準日 定時株主総会 3月31日  
期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日  
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座口座管理機関 同  
(同連絡先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
電話 0120-232-711(通話料無料)  
上場証券取引所 東京証券取引所第1部(化学)  
証券コード 4914  
単元株式数 100株  
公告の方法 電子公告により行う  
公告掲載URL [https://www.takasago.com/ja/ir/e\\_announce.html](https://www.takasago.com/ja/ir/e_announce.html)  
※ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

## 株式に関するお手続きについて

### ● 単元未満株式(100株未満の株式)買取・買増制度について

当社株式の証券市場での取引は100株単位(1単元)となっておりますため、単元未満株式(100株未満)を市場で売買することはできません。このため、当社では「単元未満株式買取・買増制度」をご用意しております。単元未満株式をご所有の株主さまは、ぜひ買取・買増制度のご利用についてご検討くださいようお願い申し上げます。

### 買取・買増制度の例(160株ご所有の場合)



## 「環境・衛生・安全」への取り組み

当社グループは、持続的な(サステナブル)社会の実現に向けて、環境保全に対しグローバルに取り組んでおります。詳細については、当社ホームページ「サステナビリティ」をご参照ください。

高砂香料工業株式会社  
「社会・環境報告書 2017」

URL <https://www.takasago.com/ja/aboutus/sustainability/ehs/pdf/takasago2017.pdf>

# Takasago's History

第6回

## 国内外の事業の進展 ● 1960⇒1980

高度経済成長期を迎えて事業規模を拡大した高砂香料は1960年にいち早く欧米に駐在所を開設し、合成香料中心から調合ビジネス重視の総合的な香料会社へと変貌を遂げる。

昭和30年代になると、国内市場の拡大と輸出の増加により、日本経済は戦後の復興期を脱して高度経済成長期に入ります。しかし、貿易収支の黒字が拡大すると、海外からの日本に対する貿易自由化への圧力が強まります。そのため、昭和35年から政府によって貿易の自由化や関税率の低減化が進められることとなり、日本の企業は国際的な競争の中に組み込まれていきます。

そうした中、高砂香料では海外での動きを活発化させます。昭和30年から始まる海外視察により、高砂の実力に自信を深めた経営陣は、昭和35年の末にパリとニューヨークに駐在所を設置し、欧米での合成香料の販売力強化に乗り出します。

翌36年には、戦中から戦後の混乱期に高砂を牽引してきた平泉貞吉が会長となり、中西健次が社長に就任します。この中西社長のもとで、高砂は国際化に向けて大きく動いていくことになります。

戦前から、高砂香料は合成香料の製造販売を中心とする会社でしたが、戦後もこの時期になると、フレージャー、フレグランスといった調合香料ビジネスの売上も大きなものになっていました。中西社長は会社の収益性の向上のため、そして合成香料自体の売上を伸ばすためにも、国内外での調合ビジネスの拡大が必要と考えていました。そこでまず、昭和38年にフランス人調香師を招いてパリに調合研究所を設置します。ここに日本から調香師が次々と派遣されて研修を受け、調香技術力が向上したと言われています。

一方、国内製造拠点としては、昭和43年までに平塚工場を主力工場として増設・整備を終え、合成、調合の生産能力を増強させました。創業の地蒲田には研究所と管理部門の一部が残るのみとなりました。

創業50周年を迎えた昭和45年には、蒲田に新しい総合研究所が完成し、研究開発力が一層強化されます。また、昭和43年から建設の始まっていた静岡県磐田工場に、昭和46年、メントール工場の新設が決まります。これは、直接的にはそれまでの原料であったシトロネラ油の高騰により、原料を転換し、あわせて新しい技術を導入す

る目的で始まったものです。しかし、大量生産に向けた大型プラントの建設は、その後の高砂の命運を決める大きな決断となりました。

その後、昭和48年の第二次オイルショックや昭和54年の第二次オイルショックなどの困難にも直面しますが、その都度原料転換や技術革新によって何とか乗り切ります。

一方、国内のフレージャー事業の急伸を背景に、新たなフレージャー関連工場として昭和49年に鹿島工場の建設が決まり、昭和55年に竣工します。ちょうど創業から60年目に、その後しばらく続くことになる、平塚、磐田、鹿島の三工場体制が完成しました。

1960年から1980年に至るこの20年は、前半の高度成長期から、オイルショックや円高を契機とする低成長時代にまたがり、多くの日本企業と同様に、高砂香料も幾多の試練を乗り越え、市場規模の拡大とともに大きな成長を遂げました。この20年は、食品や日用雑貨といった、香料ユーザーの業界が国際的に大きな変動を迎える中で、香料業界も再編が進んだ時期でもありました。こうした経営環境の変化の中で、いち早く海外に進出してフレグランスやフレージャーのビジネスに飛び込んだことは、その後ますますグローバル化する世界情勢を考えると、今日の高砂香料が成り立つ上での成功の鍵(キー)だったと言えるでしょう。

【以下次号】



1970年3月に竣工した総合研究所